

鹿児島の地質⑬

稲尾岳周辺の地質

(照葉樹の森をはぐくむ花こう岩)

地質担当 鈴木敏之

大隅半島南部の錦江町、南大隅町、肝付町にまたがる稲尾岳・木場岳一帯の森林は、スダジイ、イスノキ、アカガシが主要となる原生の姿をとどめる西日本有数の照葉樹林です。この一帯は「森林生態系保護地域」をはじめ「自然環境保全地域」「天然記念物」の指定を受けてます。

この豊かな「照葉樹の森」一帯の地質の基盤になっているのが大隅花こう岩体です。この岩体は日南層群（砂岩や頁岩およびそれらの互層からなる堆積岩）を貫いており、大隅半島では北東部の肝付町波見から南西部の南大隅町佐多伊座敷にわたって帯状に分布しています。



▲大隅花こう岩の露頭

花こう岩はマグマが地下深くでゆっくりと冷えて固まった岩石で、鉱物の大きさがそろった等粒状組織を示しています。主な鉱物は石英、長石、黒雲母で、一部、角閃石が見られ

ることもあります。岩石組成や結晶構造上の違いから、肝付町内之浦を中心に広く分布し岩体の主体をなす優白色の内之浦型、岩体の北西縁部に狭く分布する湯谷型、南大隅町石走～伊座敷間に見られる細粒の辺田大川型に分類されています。これらの岩体の貫入の時期は約1400万～2200万年前と報告されています。

花こう岩の観察スポットは、鹿児島県が整備した「照葉樹の森」稲尾岳ビジターセンター周辺の自然観察コースのうち、稲尾岳登山西口コースの自然石展望台と自然観察道滝巡りコースがおすすめです。

稲尾岳の照葉樹や花こう岩などの自然は皆さんの心をきっと癒してくれるはずです。



▲自然石展望台から望む稲尾岳山頂

鹿児島の植物27

海岸に生きる植物

植物担当 大屋 哲

風が強く、潮風のアたる海岸は、植物が生きていくには過酷な環境です。しかし、そこにもたくましく生きている植物が見られます。

2月に文化庁の依頼により沖縄県の石垣島と波照間島に調査にいきました。主に海岸の植物を対象に調査したのですが、鹿児島と共通する種もいくつかありましたので紹介します。

○ハスノハギリ (ハスノハギリ科)

平坦な砂丘地で少し湿ったところに生える常緑の高木で、高さ10m程度の群落をつくります。果実は丸く、膜にかこまれ



ハスノハギリ

ています。

鹿児島では、奄美大島以南に分布し、名は「ハスの葉に似ている桐」に由来します。石垣島では、お面など工芸品の材料に使われています。

○モンパノキ (ムラサキ科)

砂丘地や隆起珊瑚礁上に生える常緑の低木で、海岸林の先端に高さ2m程度の群落をつくります。葉は白い毛が多くついておりピロード状です。鹿児島では、宝島以南の海岸に見られます。名は「紋葉の木」で、枝につく葉の落葉跡が紋のように見えることによります。材は加工しやすく、水中めがねの枠に使われていました。



モンパノキ